

生活科学系コンソーシアム第16回会議 議事録

日時： 平成27年9月14日（月） 16:30～17:30

場所： 日本学術会議 6階6-C（1）（2）会議室

出席者：（敬称略）

コンソーシアム構成学会より連絡担当者計12名

国際服飾学会	山村明子
日本衣服学会	阿部栄子
公益社団法人日本栄養・食糧学会	上原万里子
一般社団法人日本家政学会	牛腸ヒロミ
日本家庭科教育学会	工藤由貴子（会長代理）
日本消費者教育学会	柿野成美
一般社団法人日本調理科学会	笠倉和子
服飾文化学会	岡田宣世
一般社団法人日本繊維製品消費科学会	小柴明子
生活経済学会	米山高生
一般社団法人日本保育学会	守随香
特定非営利活動法人日本栄養改善学会	木戸康博
公益社団法人日本食品科学工学会	飯島陽子
日本学術会議 健康・生活科学委員会、家政学分科会委員	
小川宣子、塚原典子、香西みどり、薩本弥生、渋川祥子、沖田富美子、多屋淑子、都築和代、工藤由貴子、藤原葉子、倉持清美、永富良一、片山倫子	

欠席者：構成学会

公益社団法人日本食品衛生学会、日本食生活学会

日本学術会議 健康・生活科学委員会、家政学分科会委員

本田由紀

資料

1. 生活科学系コンソーシアム第8回総会議事録（案）
2. 第7回生活科学系博士課程論文発表会
3. 第4回シンポジウム
4. 構成学会の会長及び連絡係りの氏名および連絡先一覧

議事内容

1. 生活科学系コンソーシアム第8回総会議事録（案）の承認（資料1）（香西）

第 8 回総会の議事録案について日本保育学会の出席者 1 名が追加された後、了承された。

2. 第 7 回生活科学系博士課程論文発表会について (資料 2) (倉持)

発表者に賞状を渡すのは交流会時とすることが確認された。案内状を構成学会の HP に掲載依頼をし、プログラム、参加のお願いもリアルタイムで HP に掲載する。構成学会には座長を、運営学会には協力を依頼する。

3. 第 4 回シンポジウムについて (資料 3) (香西)

シンポジウム案について検討した。平成 25 年 5 月の家政学分野別質保証の参照基準で示した質の保証を図ることは資格養成系にとっても重要であり、どのような教育が行われ、何が課題かについて生活者の視点にたった教育のあり方を提案してもらうことを確認した。構成学会に案内を呼びかけ学生の参加も依頼する。

4. 第 9 回生活科学系コンソーシアム総会開催日程について (小川)

2016 年 5 月 17 日 (火) 17:00~18:00 からの予定が報告された。

5. その他

○構成学会以外にも声をかけて生活科学系コンソーシアムに参加してもらいたいという意見が出た。現在、住居関係が少ない。

○HP についての報告

・リニューアルについてメールで意見交換をした。コンソーシアムの活動が活発になり、依頼してアップする回数が増えたため費用がかさむ。自身でアップを行うリニューアルは平成 28 年度に予算化されたが、予算承認後に平成 27 年度中に行うことを検討し、HP のリニューアルは現在進行中であることが塚原委員より報告された。

・生活科学系コンソーシアム年間行事予定表を HP に掲載するが、メールアドレスは載せないで阿部、小川委員に連絡することが伝えられた。

・HP には一般の方に活動を知らせる案内とともにすでに行った行事の報告も掲載。

・1 年間は業者にやってもらい、慣れてきたら担当者が更新していくようにする。

○家政学分科会の報告

・平成 25 年に質保証の家政学分野表出参照基準を提出した。分科会では人生を生きる上で家政学が重要であり、家庭科教育の問題点を出して、あり方の提言を試みていることが報告された。現在、分科会では 3 つの視点から WG を作っている。

① 現行の家庭科の内容について検討

② 現行の教員養成制度に関する課題について検討

③ 教員免許更新法運用に対する提案

本日の家政学分科会では上記①について話し合った。現行の家庭科指導要領を分析し、今後の家庭科教育に対する提案をする。②については単位の出し方を調べ、③については現行の免許更新について調べる。

○生活科学系コンソーシアムの関する構成学会からのコメント

- ・他学会の様子がわかってよい。
- ・文科省に働きかける活動を期待したい。
- ・現状の問題を学会員が考えるきっかけになる。
- ・普段は家庭科がわからないので周知が難しい。
- ・団体として発言できるのが大事。教育研究者の立場から発言できるようにする。
- ・範囲が広いのでコンソーシアムは有益である。
- ・分野が広い。メインに次ぐ2番目、3番目の学会であることが特徴。柔軟、自由にコンソーシアムに貢献したい。
- ・問題意識を持てるようになった。
- ・平成19年の管理栄養士養成コアカリキュラムが8月に改訂された。～ができる、という形でまとめられるとよい。
- ・生活の流行、問題を考え、臨機応変に対応することが必要である。コンソーシアムは有意義であり、12月のシンポジウムはいろいろな立場からの話がきけるコンソーシアムならではのもので、生活科学の提案につながる。
- ・学会として意見を集約する必要がある。HPのリニューアルを期待している。

以上